

遠藤原子力委員の海外出張報告について

平成10年6月30日

1. 出張先

仏国(パリ)、オーストリア(ウィーン)、英国(セラフィールド、ロンドン)

2. 日 程

6月16日(火) 成田発→

17日(水) パリ着

デスカタ仏原子力庁長官との会談

マンディル仏経済財務産業省資源エネルギー総局長との会談

18日(木) パリ発→ウィーン着

ペローIAEA保障措置局担当事務次長との会談

小溝IAEA事務局長特別補佐官との会談

19日(金) マイヤーIAEA広報部次長との会談

エルバラダイIAEA事務局長との会談

ウォラーIAEA管理局担当事務次長との会談

村上IAEA保障措置局実施C部長との会談

池田右二 在ウィーン国際機関日本政府代表部大使との会談

21日(日) ウィーン発→(アムステルダム)→マンチェスター着

バロウ港で使用済燃料輸送船を視察

22日(月) セラフィールドにてTHORP(使用済燃料再処理工場)

及びSMP(MOX燃料製造工場)視察

マンチェスター発→ロンドン着

24日(水) ブレントン外務省地球問題担当次官補及び

ボウエン貿易産業省原子力産業部長との会談

クラーク ウラン協会事務局長との会談

ギネスBNFL会長との会談

ロンドン発→

25日(木) 成田着

3. 概 要

核不拡散・保障措置及び原子力の広報活動等について国際原子力機関(IAEA)関係者(18日、ペロー事務次長、19日、エルバラダイ事務局長、ウォラー事務次長)と意見交換を行った。また、最近の核燃料サイクル関係政策について仏(17日、マンディル資源エネルギー総局長、デスカタ原子力庁長官)、英(ブレントン外務省次官補、ボウエン原子力産業省部長)の政府関係者及び事業者(クラーク ウラン協会事務局長、ギネスBNFL会長)と意見交換を行うとともに、英の核燃料サイクル関係施設(セラフィールドの使用済燃料再処理工場及びMOX燃料製造工場)の視察等を行った。

1. 仏原子力関係者

17日、マンディル資源エネルギー総局長及びデスカタ原子力庁長官と会談を行い、高速炉分野での協力、解体核兵器余剰プルトニウムの処理、高レベル放射性廃棄物の処分等について意見交換を行った。仏側より、2004年以降の高速炉の研究に関し熱中性子炉と高速中性子炉の両方の性質をもつ新しい研究炉をカダラシェに設置する計画について説明があった。また、日仏露による協力の発展と高速炉に関する長期的な知識、技術、経験の維持の必要性の認識が示された。また、高レベル放射性廃棄物処分については、仏の法律で定められた3つのオプションのうちの地層処分については、本年夏頃に研究施設の候補地2ヶ所が選定される予定との説明を受けた。さらに、ジョスバン首相が6月11日の議会において、原子力エネルギーを支持する発言をしたことが伝えられた。

2. IAEA関係者

19日、エルバラダイ事務局長と会談し、地球温暖化防止と原子力の関係及び今後の対策、原子力の奨励・広報活動、インド・パキスタン核実験以降の核不拡散の強化等について意見交換を行った。エルバラダイ事務局長より、IAEAの任務の3本柱である原子力の推進(広報、安全を含む)、保障措置、技術協力についてバランス良く果たしていくこと、インド、パキスタンの核実験については両国を単に孤立させるのではなく不拡散、核軍縮に向けて建設的に関与させていくこと、核兵器国による核軍縮が前進することの重要性が指摘された。

3. 英セラフィールド燃料サイクル施設の視察

21日、バロウ港にて使用済燃料輸送船パシフィック・ビンテール、22日、軽水炉使用済燃料再処理工場THORP(定期検査中)、及びMOX燃料製造施設SMP(工学的試運転中、政府の許認可発給待ち)を視察した。

4. 英原子力関係者

24日、ブレントン外務省次官補及びボウエン貿易産業省原子力産業部長と会談し、日英原子力平和利用協定、両国の原子力活動の状況、二国間での協力等について意見交換を行った。日英原子力平和利用協定の締結に向けて、両国において順調に手続が進行していることが確認された。ブレントン次官補より英国側の認識として、核燃料サイクル分野の国際面の活動に重点をおくことが強調された。また、高レベル放射性廃棄物の返還輸送については、引き続き日英仏三ヶ国間で緊密な協力を維持するとともに、輸送沿岸国における理解増進のための活動の重要性が認識された。